

本論文は

世界経済評論 2018年9/10月号

(2018年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF



富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

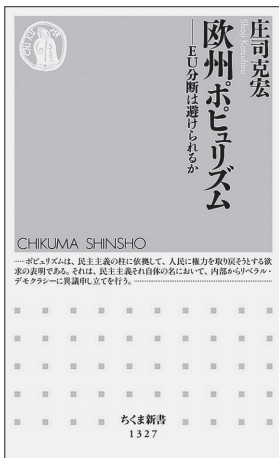
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

欧州ポピュリズム —— EU 分断は避けられるか

ITI 客員研究員 田中 素香



[編著者] 庄司克宏 (しょうじかつひろ)
慶應義塾大学教授
[発行] 筑摩書房, 2018年5月刊
[判型] 新書判・縦組, 218ページ
[定価] 本体 780円+税

EU (欧州連合) 諸国でポピュリズム政治運動が盛り上がっている。イギリスの Brexit 国民投票に始まり、17年に総選挙を実施した西欧諸国、そして本年イタリアで左右両派のポピュリズム政党が大勝し、連立政権ができた。東欧の若干の EU 加盟国でも政権が反リベラル・反 EU 行動を繰り返す。

本書の特徴はそれら欧州ポピュリズムを EU の制度および統合と関わらせて説明する点にある。法と政治の視角からの欧州ポピュリズム論である。

第1章で排外主義型と反リベラル型に分け、ともに EU の権限拡張と領域的拡大から生じたという。第2章はその2要因に関わる EU の制

度を解説し、第3章で欧州ポピュリズムの発生原因を需要側 (大衆の不满) と供給側 (既成政党の政策の収斂, グローバル化) に分けて説明する。統合を支えた「モネ方式」(加盟国政治から切り離されてエリートが統合を主導する方式) が加盟国の政治権限を奪って各国政治が活気を失い、またユーロ危機や難民危機により EU の「アウトプット型正当性」が揺らいだ。第4章ではハンガリー・ポーランド両政府の反 EU 行動を法的側面から詳細に説明し、第5章で先行統合により少数国が先に進む「アウトプット型」統合と、統合領域の縮小など加盟国の自由度を拡張する「アラカルト型」統合の組み合わせによりポピュリズムを封じ込めると提案する。

評者の意見を述べておこう。① EU 制度や統合と無関係のアメリカでポピュリズム政治が猛威を振るう。ポピュリズムは EU 制度・統合の外側でも起きているが、本書は「EU が欧州ポピュリズムの構造的要因」という見方を貫いており、意義と問題性の両方をもつ。② 東欧諸国に対して加盟前に EU がもった強制力が加盟後失われる点を、東欧ポピュリズム盛行の要因とする。その面はあるが、EU の統治は先進国本位で、新興加盟国の反発を買う。ハンガリー・ポーランド両政府に批判的だが、EU 制度・統合に問題、という本書の視角はここでもあてはまるのではないか。③ 現代のポピュリズムは EU 制度や統合を超える包括的・全体的なテーマである。欧州ポピュリズム分析も経済分析によって補完される必要がある。

これらの問題を残すものの、欧州ポピュリズムには EU に責任があるとする著者の分析視角はユニークである。読者は欧州ポピュリズムと最新の EU 制度・統合に関する最新知識を大量に入手することができる。

(たなか そこう)